

9月1日は「防災の日」は防災意識を高めよう



災害はいつどのような形で起こるかわかりません。いざというときに慌てず冷静に行動できるよう、「日ごろから災害」に対する心構えや備えをしておくことが大切です。市では、9月28日に総合防災訓練を実施します。これを機会に防災意識を高め、「もしも」に備えましょう。

「防災の日」 「防災週間」

9月1日は「防災の日」で、この日を含む1週間は「防災週間」とされています。

これは、関東大震災が発生した大正12年9月1日にちなんで制定されました。また、暦の上では「二百十日」(立春から起算して210日目)に当たり、台風シーズンを迎える時期でもあります。

自助・共助・公助 が不可欠

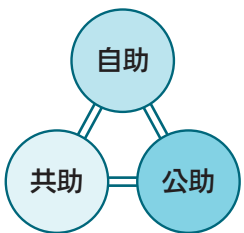
災害による被害を軽減するためには、「自助・共助・公助」の連携が不可欠です。

自助：一人ひとりが自ら取り組むこと

共助：地域や身近な人同士が一緒になって取り組むこと

公助：行政(国や地方公共団体)が取り組むこと

3つの連携が円滑なほど、災害の被害は軽減できます。



大規模災害時には、道路寸断や救出要請の殺到などで、消防や救助隊はすぐに現場に駆けつけることができません。行政による支援(公助)には限界があります。

そこで、「共助」の精神で、お互いに助け合い連携協力することが大切です。さらに、私たち一人一人が無事であれば地域や身近な人同士で助け合う「共助」は成り立ちません。まずは自分が無事であることを一番に考えましょう。

※2、3ページに関する問い合わせは総務課消防防災班 ☎73-0084まで

市総合防災訓練

9月28日(日)

市内14会場において、自主防災組織を中心とした消火訓練などの各種訓練を実施します。いざというときの避難場所はどこか、また、非常用持ち出し品はそろっているかなど、家族で今一度確認し、訓練に参加しましょう。

今年度は、陸上自衛隊第一空挺団が野栄中学校に出勤し、炊き出し訓練や車両展示などを行います。

◆時間

午前7時から
※中止の場合は6時に防災行政無線でお知らせします。

◆会場(全14会場)

①八日市場第二中②野栄中③八日市場小④豊栄小⑤須賀小⑥匠瑛小⑦豊和小⑧吉田小⑨平和小⑩椿海小⑪共興小⑫栄小⑬飯高コミュニティセンター⑭生涯学習センター



初期消火訓練の様子(昨年)

事前に準備をしておきましょう

災害はいつ起こるか分かりません。日ごろからの準備をしておきましょう。

◆非常持ち出し品のチェック
とっさに持って逃げる物をリュックなどにまとめておきましょう。本ページ下の「非常持ち出し品チェックリスト」を参考に準備してみましょう。

◆家族と話し合う

家族などと安否確認の方法や集合場所を話し合っておきましょう。

◆職場にも準備を

職場にもスニーカーや懐中電灯、手袋、飲料水などを用意しておきましょう。

◆避難経路を確認

徒歩などによる帰宅・避難経路の状況を確認し、災害時でも安全に通行できるかどうかを確認しておきましょう。



平成25年10月の大雨で大きく崩落した県道佐原八日市場線(天浦地先) 発生の翌日撮影

《帰宅支援ステーション》

千葉県を含、む首都圏では、コンビニやガソリンスタンドなどと「帰宅支援協定」を締結していて、この協定に賛同した店舗を「災害時帰宅支援ステーション」といいます。店舗には、見やすい位置にステッカー(写真)を張り出していて、災害時には、



水道水、トイレや交通情報などを可能な範囲で提供してもらえます。

防災無線戸別受信機 電池確認を忘れずに

防災行政無線の戸別受信機には、停電時にも使用できるように乾電池が入っています。乾電池は定期的に確認し、古くなった乾電池(一年以上経過したもの)は、早めに交換しましょう。



本体正面のふたを開けた状態

また、電池交換のサインが出たら新しい電池と交換し、一度電源スイッチを入れ直してください。

電池交換のサイン：①電源ランプが赤と緑の交互点滅をしている。②放送終了後にアラーム音が出る。使用電池：単一、単二もしくは単三型のいずれか同一種類を2本。

《録音機能の活用》

戸別受信機はチャイムを除く直近10回分の放送を自動的に録音しています。再生ボタンを押すことで、再度放送を聞くことができます。

もしも起きてしまったら... むやみに移動を開始せず、落ち着いた行動を

災害発生時の心得

大規模災害時には、交通システムがまひし、帰宅が困難になることが予想されます。しかし、多くの人が一斉に徒歩で移動を始めると、火災や沿道建物からの落下物などで負傷する危険があるだけでなく、優先されるべき救助・救急活動の妨げとなります。このため、災害発生時には、むやみに移動を開始しないことが重要です。

- ①まずは自分の身の安全を確保しましょう。
- ②職場や集客施設、避難所などの安全な場所にとどまるようにしましょう。
- ③災害用伝言サービスなどを活用し、家族の安否や自宅の無事を確認しましょう。
- ④ラジオやテレビなどで最新の交通情報や被害情報などを入手しましょう。

《非常持ち出し品チェックリスト》 □現金 □水・食料(目安は3日分) □救急用品(包帯、消毒薬、解熱剤など) □携帯ラジオ □懐中電灯 □軍手 □マッチ・ライター □生理用品など
※乳幼児がいる家庭は粉ミルク・離乳食や紙おむつなどを、薬を常用している人やアレルギー体質の人は処方せんのコピーなどを用意しましょう。